

# 京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2020年6月30日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第33号

## 〈密〉の文化、取り戻したい

東九条マダン前事務局長 渡辺 毅

新型コロナウイルスの脅威が広がり、人と人との接触が望ましくないとされる中、仕方がない、この疫病を克服するまでは、と人並みの心構えで過ごしてきた私ですが、「新しい生活様式」の提言には違和感を覚えました。専門家会議には敬意を表します。彼らの知見なくしてコロナ対策はできません。けれども、生活様式とは生活文化に関わること。感染症の専門家が、国の指針とするような提言を、何も文化のあり方にまで踏み込んで行う必要はないと思うのです。しばらくは3密を避けましょう、と言うだけでよかった。長引くにせよあくまでコロナ終息までしばらくは。ところが、3密を避ける「新しい生活様式」を「定着させる」などと言う。世の中には〈密〉があってはじめて成り立つ営みが山ほどあるのに、それらはどうなってもいい、と言わんばかりに。文化的営みには、ときに〈密集〉のエネルギーが不可欠です。毎年数千の人びとと共に創りあげてきた東九条マダンもその一つ。小劇場演劇のように〈密閉〉空間ならではの文化表現もあります。〈密接〉場面で口角泡を飛ばして議論することも文化創造には付きものです。そうそう、ネットワー



クサロンの東九条春まつり。あのまつりも、3密の中で世代を超えた交流の輪を創りあげてきたのです。「まつり？ 演劇？ 命とどっちが大事なんだ！」…。〈密〉の文化創造は敬遠され、非難され続けるのかもしれませんが。命と文化を秤にかける言葉を前にして、表現者が委縮するのも心配です。〈密〉を葬り去るような生活様式の「定着」は、多くの文化を死滅させる恐れがあるのです。それでもなおかつ、〈密〉を超える文化のかたちを表現者それぞれが主体的に追い求めていくというなら、それはそれでいいと思います。でも私は〈密〉の文化の豊かさに育まれてきました。だからこの我慢の日々を乗り切って、いつか必ず、密の密の密の文化を、誰もが心ゆくまで楽しめる日を取り戻したい。心からそう願っているのです。

## 「東九条の語り部たち」バクシル 朴実さん幼少期編

何分（なにぶん）、昔の事は、ぼんやりした記憶しかないのに、特に小さい頃のことは、ひょっとしたら勘違いがあるかもしれないし、確実性がないかもしれない。1925年だと思んですけど、春頃に、うちのアボジがこの東九条に来ました。その経緯もはっきりわからないんですけど。うちのアボジもオモニもチョルラフトキムジェグン全羅北道金堤郡キムジェシの出身。今の金堤市。なぜ、日本にアボジが来たのか、ちょっと定かではないんですけど、オモニ曰く、アボジは、日本の学問が進んでいるから勉強したいと言って来たらしいです。アボジは、農家の三男坊の末っ子で、甘やかされて育ったみたいです。オモニはちょっと特殊な事情があって、一人っ子なんですね。アボジは1903年（明治36年）生まれです。オモニが1906年（明治39年）生まれ。隣村同志らしいです。結婚と言っても親や親戚が決めてしまうもので、オモニはアボジを見たことがなくて、結婚の時に初めて顔を見たらしいです。オモニはアボジのお腹か背中かが黒いを見て、「この人は胃腸が弱い人だ」と思ったそうです。その通りで、アボジはものすごく胃腸が弱かったらしいです。結婚したのが、オモニが満16歳やね。アボジが19歳。関東大震災があった1923年に、長男が生まれたんです。今から思うと、李氏朝鮮の封建制、男尊女卑はすごいものですね。先に京都に来ていた友だちとか先輩が、こっちに来たら仕事がたくさんあるとか、夜学に行ったら勉強も出来ると言って、アボジはオモニには何も言わずに日本に来たんです。日本のどこへ行くとも、どういうことがあって行くとも言わずに。2歳の長男と1歳の長女がいるのに。収穫したお米を全部売り払って、粟とひえに変えてしまって、それを資金源に来たそうです。その当時、鉄道

もなかったから、馬車かなんかで釜山まで行って、船に乗って博多まで来て、そこからこちら（東九条）まで来たんですね。オモニは人伝てに、アボジが京都の東九条にいるというのがわかって、言葉も何もわからないけれども、博多から来たそうです。アボジは1925年くらいに日本に来て、オモニは追って1927年頃に来てますね。そして、戦争がどんどん激しくなって、1940年、創氏改名の時に新井って名乗ったらしいです。それまでは、朴（ぼく）さんって呼ばれていたらしいですけど。この辺、鉄工所が多くて、アボジは鉄



洛南幼稚園お遊戯会（後列右上が朴実さん）

工所の仕事をしてたけど、長続きしなかった。いろんなことをやっただけです。インチキなボールペンみたいなのを売って、行商みたいなことを。そやけど、人だまして物を売れるような人じゃなくて、一本も売れへんとか。オモニに聞いた話では、宇部炭鉱、長生炭鉱っていう海底炭鉱に行っただけです。今も記録に残っていますが、そこで陥没事故があって、多くの方が亡くなって、それでアボジも必死に帰ってきたらしいです。鉄工所やめたきっかけは、怪我して血が出ると、周りの日本人が蔑んで、「朝鮮人でも、一人前に赤い血がでるんか。青い血が出ると思った。」って言われて、腹がたって、その日でやめて帰ってしまったとか言ってました。だからもう、全然お金も何もなかった…。

アボジは夜学も行ってたらしいです。夜学の先生が自分より年下やって言ってたとオモニが言っていました。以前の皆山中学校（京都市下京区）に夜学があったんですかね。そんなふうに聞きました。そして、戦争終わる前までは、今の東山王町、山王交番所の近くの路地、今も細い路地がありますけど、こどもやさん（八百屋）の裏側あたりのところに住んで、1940年頃に今の西山王町に引っ越してきました。ちょうど戦争末期ですね。先に住んでいた同郷の人が国へ帰ったので、引き継いで住んだらしいです。ところが家主には何の話もしなかったみたいで、長いこと、「あんた勝手に入った」って言われました。

もう50年も60年も前の話ですけど。うちのアボジは日本語がすごく上手で、背も高く、だから政治的な活動とかいろんなことに利用されてたみたいです。弁論が上手なんで、あのころ朝鮮人が選挙に参加できたのは、戦前だったのかな。戦後のすぐの時代かな。後には、労農党（注1）やらあった時代で、大山郁夫（注2）っていう有名な人がいて、その人の応援弁士として、ただ金をもらうんじゃないし、一生懸命演説したら酒をもらう。



雑誌『オール・ロマンス』

- 注1 労農党：1926年に結党した無産政党。1928年に結社禁止処分になり、1929年に合法無産政党として再建。1931年に全国大衆党と全国労農大衆党を結成し解散。
- 注2 大山郁夫：政治家・政治学者。労農党の委員長となり、1930年の第17回衆議院議員総選挙で当選。2年後にアメリカに亡命し、1947年に帰国。1950年の参院選に全京都民主戦線統一会議（民統）の支援を得て当選。1955年に硬膜下血腫で死去。
- 注3 雑誌『オール・ロマンス』：1951年10月号の小説「特殊部隊」で、闇米運搬を記述。部落差別小説とされたが登場人物の多くは朝鮮人。

で、それを飲んで。僕は3歳か4歳から、うっすら覚えてるんですけど、ある日、鬭争に巻き込まれたのか、リンチにおうて、血まみれなって帰ってきて、それからもう活動しなくなって。

その時、殴られた跡か、耳から血が出てて、膿になって。病院では金がないから見てくれなくて、結局、それが原因で亡くなっていったけれども。

ヤミ市は、僕はもうちょっと長かったんかなあって思ったら、解放直後からできて、1年ほどの間だけみたいですね。自転車屋とヤミ米屋さんがいっぱいあって、オモニが買出し行って、僕も一緒に行きました。よく、うちのオモニが行ってたのは、（滋賀県）近江八幡からもうちょっと向こう、篠原ってあんのかな。あの当時、あの辺、同胞の人たちいたんやね。駅前に。篠原とか近江八幡とか、あっちまで行ってましたね。まさしく、あの描写（オールロマンス）（注3）どおりで、東海道線が京都駅に向かって下りてくると、みんなこっち（片側）に寄って…列車が傾むく感じで。（列車から見えるところで）ハンカチ振ったりして「今日は駅で見張ってるよ」というような合図でわかるわけよね。それで鴨川鉄橋渡った時にはあっと河原に放るわけ。ドンゴロス（麻袋）を。だから、ドンゴロスは破れてビシャビシャになる。でも、うちのオモニとか、上殿田町（今の西山王町）の集落を出た人で親しくしてた人らが崇仁にもおられて、取りに行って、お礼になんばか渡して。僕ら小さいもんは、砂やら石やら混ざってるもんをより分けたりするのが仕事やったけど。でも、白米は食べられなかったね。白米、食べたことなかったね。一回、二回かな、オモニが（警察に）つかまって。僕と妹を連れてるもんやから、僕は三歳から四歳くらいのもんで、妹は生まれたてやし、それでオモニがブルブルブルブル震えて、僕はよくわからへんけど、こわかったという印象しか残ってない。でもまあ、小さい子二人抱えてるんで、普通の人はそのままブタ箱に掘りこまれるんやけど、その日のうちに釈放された。そんなことが続いたから、結局やめて、オモニの仕事は失対事業の日雇いになっていきました。オモニとアボジは、僕が知ってる時は、廃品回収みたいなんやってたんですけど、当時、駅弁など買う時にお茶を買うんですけど、土瓶にお茶を入れて飲んでたん

です。僕も手伝った記憶ありますが、土瓶を集めて洗って業者のどこ持っていったら、金になる。そのもらった金は必ず、山王屋かな、今、山王校を西へ渡ったところにローソンがありますね。あそこ路地やったんですけどね。その路地で金城さんいうところが山王屋っていうのをやって、どぶ酒を出してた。マッコリをね。アボジはそこ行っていつも呑んでました。うちはものすごく貧乏で、子どもが多いし、僕は下の方ですけど七人兄弟でね。妹が1947年生まれで一番下ですけども。だから、オモニは日雇いして。うちは、奥の部屋が四畳半一間で、表の間が三畳間で、ぼっとな便所で、そして、前にポンプがあって、隣との共用やって。表の部屋で兄夫婦と子どもで3人、残りの8人、アボジオモニと、兄貴、兄貴、姉、姉、僕、妹が四畳半に住んでた。アボジは働かへんし、食べるもんがないから、なんかやっても、食べるもんがないゆうのは辛いね。京都駅に近鉄と国鉄の共用の南口という改札口が下にあったでしょ。そこが買出しの集結、ヤミ米の集結やって。入ったとこの左っ側に、駅弁とかそういうものをほってあったん。それも新しいものがけっこうあるから、たとえばリンゴやったら、二口くらいかじって捨ててあったり。それを、拾って洗って切ってね、食べたりしました。小学校1年の12月にうちのアボジ亡くなって、それでも、僕は泣きも何もしなかったけど、みんなワンワン泣いてるのがなんでかわからなかったんですけど。僕は、アボジが全然働かないし、酒ばかり飲んでるので、食いぶちがひとつなくなって、とってて。

その時に、一回、生活保護を申請したんですよ。一時期通ったんかな。僕も小さいからよくわからないんですけど。ケースワーカーがものすごう、うちのオモニやらでもみんな嫌でね。うち来られんのんが。一時期、生活保護を受けてたのは確かですけど、取り下げられたんですよ。打ち切られた。その原因が今でもよく覚えてんねん。その北向不動尊ってあるでしょ。そこに週に1回くらい、<sup>いち</sup>市が立ってた、夜店っていうんかな。昔よく、今もあんのかな、ひよこを売ってたんですよ。1円かなんぽか。すぐ上の兄貴がそういうの飼うのが好きでね。上手に。大概、死ぬんですけどね。偶然に一羽が大きくなって立派になって。近所のうちが、その娘さんがお嫁に行く時に、料理をするのに、鶏をね、分けてほしい言わはって。そんなら物々交換でタンスをね、うちにもらったん。ケースワーカーが来てね。このタンスどうしたかっ



小学4年生頃妹と

て。事情を説明しても納得してもらえなかった。日本人でも貧しい時代で食うて行けへんのに、朝鮮人に税金使うわけにいかん言うて、それでなんか、切られたみたい。なんしろ、ケースワーカー来る時、家中がびくびくしていたっていうのをよく覚えています。だからオモ二は役所の人間はものすごく嫌いで、まあ、だいたい一世の人はそう言いますけどね。なんしろ、嫌がらせが多かったみたいです。調べてみたら、朝鮮人は生活保護の対象から打ち切るという方針が出てたみたいです。（次回に続く）

## ネットワークセンターにゴミレンジャー現る

「スウィング」は障害のある人ない人およそ40名が働くNPO法人です。ここでは仕事を「人や社会に対して働きかけること」と定義し、対価の有無に捉われない様々な実践を繰り広げており、その代表的な取り組みが2008年10月にスタートした清掃活動「ゴミコロリ」です。揃いの青いゼッケンをつけ、火バサミとゴミ袋を手にした総勢20~30名が、頭フラつく真夏の日も、雪の舞い散る真冬の日も、スウィングが拠点とする京都・上賀茂を中心にゴミ退治を重ねてきたその回数は、この12年で140回（2020年6月現在）にのぼります。ゴミコロリには「まち美化戦隊ゴミコロレンジャー」というヒーローが複数名登場するのですが、戦隊ヒーローの常識を覆すべく構成員はすべて「ゴミブルー」。

登場当初は「不審者」として通報されパトカー3台に取り囲まれたこともありましたが、今ではコンビニに入って買い物をするのも、拾った貴重品を交番に届けるのも平気です。



清掃活動後、ネットワークセンター内の高齢者交流室にいられている方々と一緒にラジオ体操

2012年からは上賀茂のみならず京都市内のあちこちや、出張ついでに全国各地にゴミブルーを派遣(?)するようになりました。東九条にもときどきお邪魔し、仲良くしていただけたらと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひします！（NPO法人スウィング 木ノ戸昌幸）

※にこにこやでは地域の方々と一緒に月曜~金曜（祝日を除く）ラジオ体操をしています

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□開館時間：9時~17時 □webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス42・202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より徒歩1分